

田屋遺跡第18次調査現地説明会資料

和歌山市教育委員会
公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団

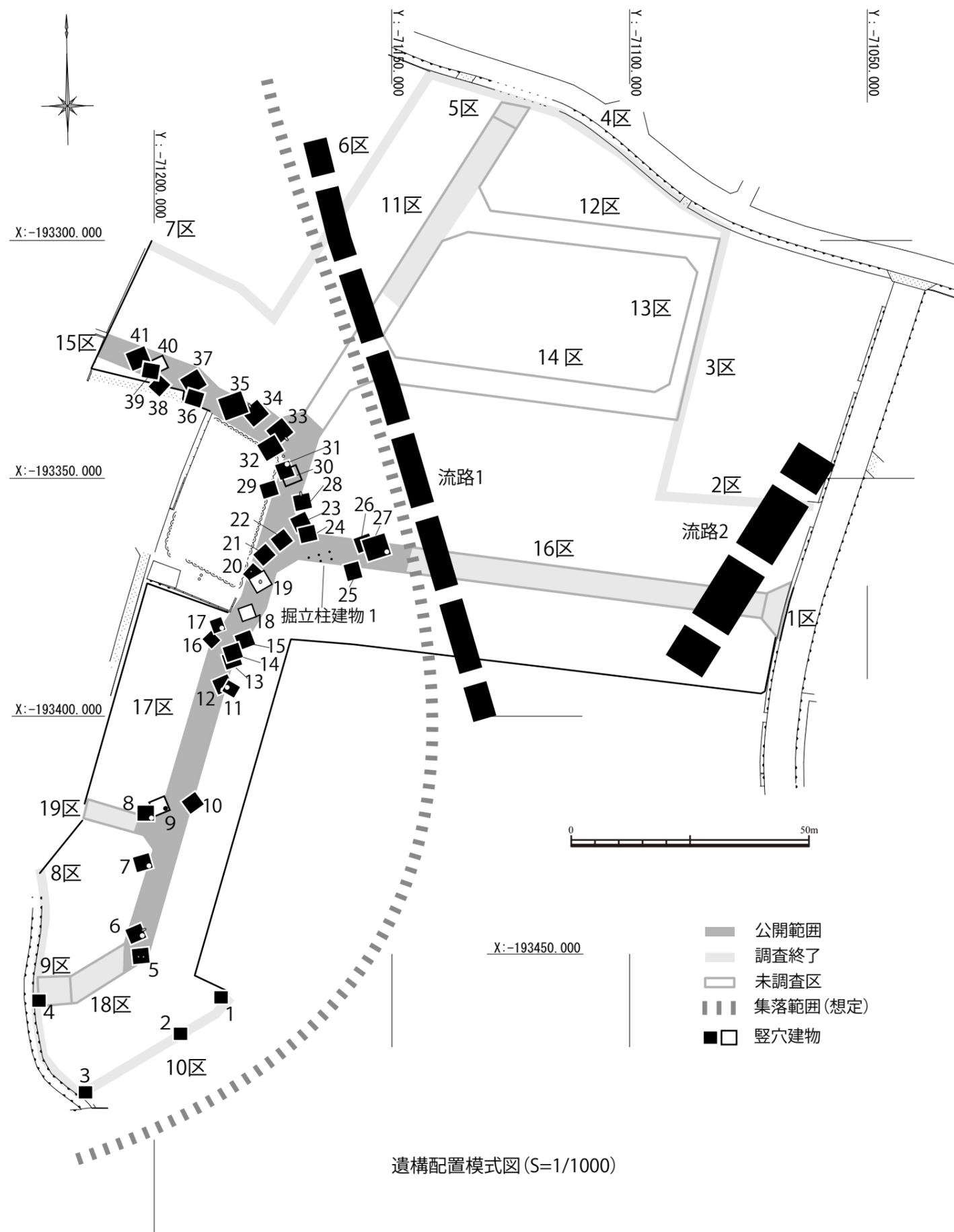
調査所在地：和歌山市田屋字里神 163 番地他
 調査期間：平成 25 年 3 月 12 日～現在継続中
 調査面積：約 3700 ㎡
 調査原因：分譲住宅建設に付帯する道路工事
 主な時代：古墳時代前期～後期
 主な遺構：竪穴建物 41 棟 掘立柱建物 1 棟 流路 2 条

田屋遺跡は、標高約 6.0m の紀ノ川北岸の沖積地上に立地します。昭和 57 年から行われた一般国道 24 号線（和歌山バイパス）建設に伴う調査では、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての竪穴建物が約 60 棟みつかり、紀ノ川北岸を代表する集落遺跡として有名です。

今回の調査でも、流路に区画された微高地上に立地する古墳時代中期を中心とする時期の竪穴建物が 41 棟見つかりました。今回みつかった竪穴建物は、良好な状態で残っていたものが多く、柱穴、竪穴壁の崩落を防ぐ板材の痕跡、室内を仕切る仕切り板の痕跡やベット状遺構、カマドや炉、貯蔵穴等を検出し、当時の建物構造や室内の間取りを考える上で重要な成果を得ることができ、集落を区切る流路の外側も調査することで、集落の立地も明らかになりました。現在調査中で、調査成果を評価しきれませんが、実際に見ていただくことが重要と考え、現地説明会を実施することになりました。竪穴建物の多様性を見ていただきたいと思います。



調査位置図 (S=1/10000)



遺構配置模式図 (S=1/1000)